

ヒアリング調査結果の報告

1. ヒアリング調査結果の概要
2. ヒアリング調査(追加報告)
 - (1) 與那覇 有羽 氏 (よなは民具)
 - (2) 八巻 希 氏 (シカゴ沖縄県人会副会長)

特命推進課
令和4年11月29日

1. ヒアリング調査結果の概要

第2回万国津梁会議以降、関係者ヒアリングを追加で実施(與那覇氏、シカゴ沖縄県人会)
 ※赤字部分追加

中間報告	分野	取組内容	調査内容
文化的価値の普及・啓発	離島等	地域における伝統文化(芸能・工芸等)の振興に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> 前里 昌吾氏 (クイチャーフェスティバル実行委員) 中村 良三氏 (株式会社プラネットフォー代表取締役) 岡山 創氏 (八重山古典音楽奏者/石垣市職員) 宮古島市役所 生涯学習振興課 文化振興係 神谷 武史氏 (沖縄県立芸術大学音楽学部音楽科音楽文化専攻沖縄文化コース 講師) <p>与那国島で伝統的な民具の制作・販売をしている方にヒアリングを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 與那覇 有羽氏(よなは民具)
	教育	学校現場での歴史・文化教育に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> 糸満市の「海人科」(糸満市教育委員会学校教育課) 漆の出前授業 (NPO法人アートリンク) 文化人材バンク「学校出前塾」(公益財団法人 岡山県文化連盟) <p>※事例収集</p>
新たな価値の創出	異分野連携	観光分野など他産業、異分野と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> 漆芸の需要喚起の取組(NPO法人アートリンク) 琉球文化の良質なコンテンツを創出する取組(琉球伝統芸能デザイン研究室)
—	—	海外のウチナーンチュの伝統芸能等に関する取組	<p>海外のウチナーンチュ(沖縄県人会)による沖縄の伝統芸能に関する取組についてヒアリングを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 八巻 希氏 (シカゴ沖縄県人会副会長、シカゴ聖マタイ創作エイサー立ち上げ代表)

(2) 関係者ヒアリングでの主な意見

與那覇氏と八巻氏の主な意見は以下のとおり。本質的な価値の理解が重要であること、個々(民具やエイサー等)の体験や交流を通じて琉球文化の理解につながる事等が共通意見としてみられた。

與那覇 有羽 氏 (よなは民具)

1986年生まれ、沖縄県八重山郡与那国町出身の民具作家。クバの葉を使った伝統的な工芸品や民具、道具作りなどを行ないながら、祭や行事にて地謡を務める。

- 民具は商品としての価値以外に、地域文化としての位置づけが必要。民具を知ることは、当時どのように生活していたか、どのように考えていたかを考えるきっかけとなり、それが民具の価値となる。
- 作り手に理解のある顧客とつながることが重要。
- 県内外のイベントを通じて、来場者だけでなく他の伝統工芸、芸能関係者との交流することが出来、それぞれのものづくりに対する思いなどを共有するなど大きな刺激となる。
- 子どもへの教育や年中行事などでも言えるが、表面的な活動にならないことが重要。自分たちにとって大事なものであることを理解しないとイケない。

八巻 希 氏 (シカゴ県人会副会長)

うるま市出身(旧与那城町)、聖マタイルーテル日本語幼稚園主任。聖マタイルーテル日本語幼稚園の卒園生を中心に創作エイサー隊「ちむどんどん」を結成。

- 「世界のウチナーネットワーク強化推進事業(沖縄文化芸能指導者派遣事業)」を活用して沖縄から指導者を派遣してもらい、子ども達に本場沖縄のエイサーに触れる機会を設けることが出来た。
- アメリカに住む子ども達やその親にとって、初めて触れる「伝統文化」がエイサーという場合もあり、創作エイサーを通じて沖縄を誇りに思っている。
- 沖縄で本場の創作エイサー、伝統エイサーに触れ、新しいドキドキがたくさんあったと言って帰ってくる。この体験が次世代への継承に必要なことだと考えている。
- 国籍・宗教など多様性のあるアメリカでは、念仏踊りをルーツにする伝統エイサーよりは、創作エイサーの方が馴染みやすい(特に宗教観については気を使っている)。